

# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	京都府
推進地域名 (再委託先)	京丹波町 福知山市

## 1 事業推進の体制

実践中心校	京丹波町立瑞穂小学校、京丹波町立瑞穂中学校、 福知山市立惇明小学校、福知山市立日新中学校
協力校	京丹波町立和知小学校、京丹波町立丹波ひかり小学校、 福知山市立庵我小学校、福知山市立大江中学校
関係機関	京都府立大学、京都府学校給食研究会、(公財)京都府学校給食会、各教育局

## 2 各都道府県教育委員会の取組

### (1) 食育の方針（取組内容）

- ・市町（組合）教育委員会、各学校の食育推進体制の推進
- ・校種間の系統性を踏まえた組織的・計画的な食育の推進

### (2) 実践推進地域への指導・支援内容等

- 京都府食育推進委員会委員に、推進地域の教育委員会、実践中心校校長及び栄養教諭を委嘱すると共に、担当指導主事が推進地域の食育推進委員会委員として連携・支援を図る。
- ・府の方針を踏まえ、テーマに沿った実践的な取組を実施し、府が伝達することによって府内全域の食育を推進する。
  - ・市町教育委員会としての体制を整備し、地域全体の食育を推進する。 等

## 3 具体的な取組等について

テーマ1	市町（組合）教育委員会、各学校の推進体制を推進するための方策
評価指標	食育推進体制の整備状況
効果	研修会や報告冊子の配布を通して、推進地域の体制や学校教育活動全体を通じた食育の推進の在り方と食育に取り組んだ成果を報告することにより、他の市町（組合）教育委員会や各学校の食育の推進体制を推進した。結果として、食育を進めていく体制がある学校がわずかではあるが増加した。
<p>(取組状況)</p> <p>ア 実施状況</p> <p>(7) 研修会への市町（組合）教育委員会担当課の参加奨励</p> <p>(4) 報告冊子（食育Ⅶ）において、推進地域の事業体制や教育委員会の役割等の報告</p> <p>(9) 食育研修会（2月20日（木）開催）での推進地域教育委員会からの報告</p> <p>イ 推進体制の実態把握のためのアンケート結果</p> <p>(7) 【食育を進めていく体制がある市町（組合）教育委員会】（平成25年10月調査）</p> <p>②5 57%</p> <p>(4) 【食育を進めていく体制がある学校】（平成25年8月調査）</p> <p>②4小 98%、中 77%、府立 47% → ②5小 98%、中 79%、府立 49%</p>	

テーマ2	校種間の系統性を踏まえ、教育活動全体を通じて食育を推進するための方策
評価指標	食に関する指導の全体計画作成状況、年間指導計画作成状況
効果	推進地域での取組等を研修会や報告書等で広く普及することやホームページの充実など効果的な情報の配信、中学校に焦点をあてた中学校食育研修会等により、各学校における計画的・系統的な食育の推進を図った。結果として、食に関する指導の全体計画については、継続してすべての公立学校で作成された。
<p>(取組状況)</p> <p>ア 実施状況</p> <p>(ア) 府農林水産部と連携した食育事業による各学校への人材派遣や体験の場の提供 食いく先生の派遣・・・小8校、中2校、高3校 食の体験の場の紹介・・・食の味わい館等</p> <p>(イ) 研修会等における「関連教科における食に関する指導（小・中学校版）」の周知・活用促進依頼</p> <p>(ロ) 効果的な情報の配信・・・ホームページを通じて、食育月間等の事例(小・中・高)、指定校の取組の紹介等</p> <p>(エ) 中学校食育研修会の開催 南北2箇所で開催 1月23日(木)、1月24日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪ガス(株) エネルギー・文化研究所副主任研究員の山下満智子氏による講演を通して調理することにおける脳への効果について学んだ。</li> <li>・甲子園大学栄養学部准教授博士(医学) 管理栄養士木村祐子氏による講演・演習を通して、クラブ活動を行う生徒に対する栄養管理の方法や効果的な食事の方法について学んだ。</li> <li>・実践報告を通して、中学校における食育の取組の実際について学び、今後の実践の参考とした。</li> <li>・研究協議を通して、各学校における様々な取組や課題の解決方法などを交流し、今後の参考とした。</li> </ul> <p>(オ) 食育研修会の開催 2月20日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本料理アカデミー「懐石 近又」七代目主人・総料理長の鶴飼治二氏による講演を行い、和食の無形文化遺産登録への思い、次世代への和食や食文化の継承の重要性、おもてなしや感謝の気持ちの大切さについて学んだ。</li> <li>・府立高校の地元京野菜の復活プロジェクトの実践を通して、地域や企業と連携し、生徒が主体的に行っている食育の実際を学んだ。</li> <li>・推進地域での実践発表を通して、事業の成果を府内に普及するとともに各学校における家庭・地域と連携した食育の推進を図った。</li> </ul> <p>(カ) 研究報告冊子(食育Ⅶ)の発行 推進地域の取組の成果についての報告書を作成し、府内の学校等に配布するとともにホームページに掲載し、家庭・地域と連携した学校教育活動全体を通じた食育の推進を図った。</p> <p>イ アンケートの実施</p> <p>(ア) 【食に関する指導の全体計画を作成している学校】(平成25年8月調査) ⑭小 100%、中 100%、府立 100% → ⑮小 100%、中 100%、府立 100%</p> <p>(イ) 【食に関する年間指導計画を作成している学校】(平成25年8月調査) ⑭小 96%、中 80%、府立 43% → ⑮小 92%、中 80%、府立 51%</p>	

テーマ3	
評価指標	
効 果	
(取組状況)	

テーマ1～3に共通する取組	
評価指標	
効 果	
(取組状況)	

#### 4 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

研修会の開催や報告冊子の作成、配布を通じて、実践地域の取組等を府内全域に周知することにより、府の方針である市町（組合）教育委員会、各学校の食育推進体制の整備、校種間の系統性を踏まえた組織的・計画的な食育の推進の支援を行った。

#### 5 各都道府県教育委員会における事業成果の活用について

研修会や報告冊子の配布を通じて、実践地域の取組を府内全域に周知することにより、府の方針である市町（組合）教育委員会、各学校の食育推進体制の整備、校種間の系統性を踏まえた組織的・計画的な食育を推進していけるように支援していく。

## 6 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ア 市町（組合）教育委員会、各学校の食育推進体制の整備を引き続き推進していく必要がある。
- イ 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校のすべての学校で、全教職員の共通理解のもと計画的な食育が推進できるような支援が引き続き必要である。